

無痛分娩についての説明書

お産（分娩）は強い痛みを伴います。痛みの場所や痛みの程度は、分娩の進行度合いによって少しずつ変化します。また、分娩の進行は一人ひとり違い、それを出産前に予測することは困難です。無痛分娩は麻酔を用いて分娩の痛みを軽くします。完全に痛みを取り除くわけではありません。無痛分娩を行うのは、妊婦さんの希望がある場合が原則です。無痛分娩の内容やメリット・デメリットについてよく理解されたうえで、納得してお受けください。

1. 現在の病状、診断、重症度、原因

2. 無痛分娩の実際と注意事項

無痛分娩：当院における無痛分娩は、麻酔科医のサポートにより産科（分娩）チームで対応しております。妊娠 39 週で計画無痛分娩を行います。急な陣痛発来時などは無痛分娩を行えませんのでご了承ください。

麻酔：麻酔科医が硬膜外麻酔を行い、痛みをとります。硬膜外麻酔は硬膜外腔という場所に細い管（くだ）を入れて、麻酔薬を投与します。硬膜外腔の近くには神経があり、これらの神経に麻酔薬が作用することでお産の痛みが和らぎます。硬膜外麻酔は無痛分娩の方法として、一般的で、鎮痛効果が高く、お母さんや赤ちゃんへの悪い影響がとても少ないのが特徴です。

麻酔方法：硬膜外麻酔のための管（くだ）を麻酔科医が挿入します。このときに薬剤を注入し、麻酔の範囲を確認し、お母さんと赤ちゃんに異常が出ないことを確認します。

分娩誘発：子宮口が閉じている方は、バルーンなどで子宮口を広げる処置を行います。その後、陣痛促進剤にて分娩を誘発します。胎児心拍モニターを常に確認します。

鎮痛：陣痛の痛みが出てきたら、硬膜外腔に入れた管から痛み止めの麻酔薬の注入を始めます。ご自分のペースで麻酔薬を注入できます。

お産が終わったら、硬膜外麻酔を終了し管を抜きます。その後の痛みが出たときは、飲み薬などで対応します。

注意事項：

- ・当院では予定外の陣痛発来には対応していません。また、血液が固まりにくい場合（もとの病気や血を固まりにくくする薬や注射を直前までおこなっている場合）、背骨

記載された個人情報、この書類の記載目的以外の利用はいたしません。書類のお取り扱いには、十分ご注意ください。

岡山済生会総合病院・岡山済生会外来センター病院

★ I C (同意書)

に変形がある場合や背中の中の神経に病気がある場合、高熱が出ている場合などで麻酔科医が硬膜外麻酔をできないと判断した場合には、無痛分娩はできません。

- ・無痛分娩中はモニターなどをつけたままの状態、ベッド上で過ごします。麻酔の影響で足が思うように動かなくなり転ぶ危険があるため、原則歩くことはできません。また、原則無痛分娩中は絶食で飲水のみを摂取になります。
- ・妊娠 34 週前後で術前検査（血液検査、心電図、レントゲン）を行い、麻酔科外来に紹介します。そこで麻酔科の先生からの麻酔の説明を受けてもらいます。
- ・当院では無痛分娩の費用として、通常の入院・分娩費用に加えて硬膜外麻酔処置料 5 万円、分娩誘発・促進処置料 5 千円／日を頂いております。その他、外来での検査費用（自費）を頂いております。（2023 年 11 月時点）。

3. 無痛分娩の有効性と限界：

無痛分娩を行うとほとんどの方は痛みが和らぎます。痛みが和らぐことで落ち着いて分娩に臨むことができ、分娩による疲労が少なく、産後の回復が早くなることが多いです。しかし、“無痛分娩”と呼ばれますが、何も感じない状態ではありません。無痛分娩をはじめた後も、下腹部の張る感じや圧迫感が残ります。この感覚を痛みとして感じる方もいます。また麻酔が効きにくい部位もあります。痛みの感じ方に個人差があることをご了承ください。硬膜外麻酔の広がり不十分な場合や麻酔の管の位置に異常がある場合は、麻酔の管の入れ直しを行うことがあります。

4. 無痛分娩に伴う危険性とその発生率：

4-1. よく見られるもの

- ・足の感覚が鈍くなったり、動かしにくくなったりします。
- ・尿意を感じにくくなるため、適宜管を通して尿を出す処置が必要になります。
- ・皮膚にかゆみを感じる場合があります。
- ・軽い低血圧が起こることがあります。血圧は適宜計測し、低血圧になったときには体の向きを変えたり、血圧を上げる薬剤を投与したり、点滴による水分補給を増やしたりします。
- ・お産が終わり管を抜いた後に麻酔効果が切れてくると、会陰切開部の痛みを強く感じる場合があります。

4-2. まれに見られる重篤なもの

- ・高位・全脊髄くも膜下麻酔：硬膜外麻酔の管が脊髄くも膜下腔に入ってしまうことがあります。このときには麻酔の効果が強く出て、足が動かなくなったり、血圧が下がったりやすくなったりします。重症の場合には腕までしびれが広がったり、呼吸がしにく

記載された個人情報、この書類の記載目的以外の利用はいたしません。書類のお取り扱いには、十分ご注意ください。

くなったり、意識がぼんやりしたりすることもあります。適切な初期対応で重篤になるのを防止する必要があります。

- ・局所麻酔薬中毒：薬剤の血中濃度が高くなりすぎると、耳鳴り、口のしびれなどの症状がでます。重症の場合には意識がぼんやりしたり、不整脈が出たり、心停止に至ることがあります。適切な初期対応で重篤になるのを防止する必要があります。
- ・薬剤アレルギー、アナフィラキシーショック：薬剤に対するアレルギーが原因で起こります。適切な初期対応で重篤になるのを防止する必要があります。

4-3. 産後まで続くもの

- ・針や管が硬膜を傷つけ、頭痛を起こすことがあります（硬膜穿刺後頭痛）。通常1週間程度で自然に改善します。ひどい頭痛の場合は麻酔科医に依頼し治療をします。
- ・産後、足やお尻の感覚が鈍い感じ、足が動かしにくくなることがあります。数日～1か月程度で軽快することが一般的です。
- ・非常にまれですが、後遺症が残る合併症として、硬膜外麻酔の管を入れた部分の出血や感染、神経障害があります。

4-4. 分娩や赤ちゃんへの影響

- ・硬膜外麻酔によって、帝王切開率が増えることはありません。
- ・硬膜外麻酔によって、分娩時間が長くなることがあります。
- ・硬膜外麻酔によって、陣痛促進薬の使用が増えたり、鉗子分娩や吸引分娩が増えたりすることが知られています。
- ・無痛分娩を開始してすぐに、赤ちゃんの心拍数が一時的に減少する場合があります。分娩中は赤ちゃんの心拍数を絶えずモニターし、心拍数が少なくなったときには迅速に対応します。

*硬膜外麻酔は、胎児に悪影響を直接与えることはありません。しかし、母体に麻酔合併症が発生した場合、胎児もその影響を受けることがあります。

※安全確保目的の身体の抑制

手術中の転落防止、麻酔覚醒時の転落防止、点滴・チューブ類の自己抜去防止、手術後せん妄発生時などの安全確保を目的に身体を抑制する対応を行うことがあります。

5. あなたの基礎疾患(合併疾患)が無痛分娩に及ぼす影響：

6. 偶発症が発生した時の対応 :

万が一、偶発症が起きた場合には最善の治療を行います。
なお、その際の医療は原則保険診療となります。

7. 代替可能な治療法の危険性とその発生率 :

硬膜外麻酔以外の無痛分娩の方法として、点滴から鎮痛薬（医療用麻薬）を投与する方法があります。しかし、この方法は分娩中の妊婦さんや赤ちゃんが眠くなったり、呼吸が弱くなったりしやすい鎮痛法です。また硬膜外麻酔に比べて、鎮痛効果も劣ります。そのため当院 では、無痛分娩は硬膜外麻酔を第一選択としています。

8. 無痛分娩を行わなかった場合に予想される経過 :

通常のお産になります。

9. セカンドオピニオン

セカンドオピニオンの希望のある方は、担当医に申し出てください。

10. 同意を撤回する場合 :

いったん同意書を提出しても、治療を開始されるまでは中止することができます。
その場合には、その旨を担当医まで連絡して下さい。

11. 連絡先

治療について質問がある時や、手術を受けた後に緊急の事態が発生した時は、下記まで連絡してください。

岡山済生会総合病院

岡山済生会外来センター病院

電話 : 086-252-2211

以上、無痛分娩について説明いたしました。十分にご理解いただけましたでしょうか。理解できましたら、よく考えて同意書(別紙)に署名してください。

同意書

岡山済生会総合病院 院長 殿

岡山済生会外来センター病院 院長 殿

私は、無痛分娩を受けるにあたり、説明書に記載された事項について医師から説明を受け、その内容を十分に理解しました。また、私は無痛分娩を受けるかどうか、十分な時間をかけて検討しました。

以上のもとで、自由な意志に基づき無痛分娩を受けることに同意します。

- ・現在の病状、診断、重症度、原因
- ・無痛分娩の実際と注意事項
- ・無痛分娩の有効性と限界
- ・無痛分娩に伴う危険性とその発生率
- ・あなたの基礎疾患（合併疾患）が無痛分娩に及ぼす影響
- ・偶発症発生時の対応
- ・代替可能な治療法の危険性とその発生率
- ・無痛分娩を行わなかった場合に予想される経過
- ・セカンドオピニオン
- ・同意を撤回する場合
- ・連絡先

以上の説明を致しました。

年 月 日

説明担当医 _____ ⑩ () 又は自署

同席者 _____ (職種:)

以上の説明を受け、了承しました。

年 月 日

本人または代理人 _____ (続柄:)

同席者 _____ (続柄:)

連絡先電話番号 _____

[注] 未成年者・認知症などで意思決定が不十分と思われる場合は、代理人がご記入ください。